

私の輝ける場所は アメリカだった！

—— 国内進学から海外へ進路変更した
学生の体験談

Student Voice ①

T.Tさん
カリフォルニア大学
サンディエゴ校

英語力だけでなく、精神的にも成長！ カレッジ生活を経てトップ大学への準備に！

小さいときからプロテニスプレーヤーになりたいと目標を持っていました。その私が英語に対して興味を持ち始めたのは、中学2年生で参加したフランスでのテニス合宿です。そこでは外国人選手が集まり、テニスのスキル以外に英語力を求められました。練習内容はすべて英語でしたので、監督や外国人選手が何を話しているのか理解ができず結局ただのテニス練習だけで終わってしまい、後悔の残る合宿となってしまいました。世界で活躍できるプレーヤーになりたいと思っていた自分にとって、英語力は必要不可欠なものだと実感しました。

高校に入学し、英語力の必要性を感じながらも部活やテニスクラブで毎日練習をする日々を送りました。高校3年になり進路決定を行う時期で、父に「英語」か「テニス」かどちらかに専念するように言われ、迷わず英語を選び、夏からトフルゼミナールに入って勉強に励みました。その時点ではまだスポーツ推薦で日本の大学に進学しようと考えていましたが、担当カウンセラーに留学を勧められて、高校を卒業したら渡米するという決断をしました。

初めてTOEFL試験を受けたときは36点で、2回目は31点でした。また、リスニングのセクションでは1点しか取れないほどで、最初は勉強しても英語力が伸びませんでした。それでも諦めずに一生懸命続け、なんとかトフルゼミナールの模試で入学可能なカリフォルニアの2年制カレッジに入学することができました。

最初は、語学学校で他の留学生と一緒に学習をして、現地での生活に慣れることから始めました。英語でいろいろな国の人とコミュニケーションを取ることで、勉強とは違った形で実践力が身につきました。

カレッジでの生活は、語学学校とは比べものにならないくらい忙しく、また入学してすぐには友達が作れず一人で勉強する毎日でした。なので、自分から積極的に友達を作るようにして、自分がこれから取る授業についての情報や知識を収集するようにしました。

朝8時に図書館へ行き、夜の12時までこもって、それでも時間が足りず朝の5時まで友達と勉強をした日々を過ごしたことは、振り返ってみると「人生で一番勉強した」と感じる大きな経験でした。また、現地の指導員のサポートやアドバイスを自分の気持ちを大きく支えてくれました。

このプログラムを通して知り合った友達は、皆親切にいろいろなことを教えてくれて、勉強以外でもパーティーなどに誘ってもらったりと、楽しいカレッジライフを送ることができました。また、ただ勉強するだけでは成績アップに繋がらないと思い、月曜日から木曜日は授業に参加し、金曜日と土曜日の昼間は課題などを全部終わらせ、土曜日の夜や日曜日はパーティーなどに参加して、自分にとって有意義な時間を設けるようにしていました。

2年間で編入するために必要な授業をすべて受け、GPAを3.9にまで伸ばし、最終的にカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)に編入することができました。このコミュニティカレッジでの2年間の経験が、英語力の向上だけでなく精神的にも成長させてくれました。これからUCSDという新しい環境に飛び込んでいきますが、このカレッジでの経験が「新しい場所でも上手くやっていける」という自信を持たせてくれると実感しました。

19年春／19年秋入学

米国4年制大学 編入・進学 個別相談会 のご案内

トフルゼミナール各校で実施しております



事前予約要

校舎一覧：http://tofl.jp/map_i/map_i.php

S.Oさん
カリフォルニア大学
バークレー校

大学受験をきっかけにアメリカへ留学、
孤独と戦いながら自身の成長を楽しむ！

幼い頃はディズニーキャラクター、中学生の頃は洋楽が大好きで、音楽や映画を通して自然と英語やアメリカ文化に興味を持つようになりました。

高校に入って初めてアメリカにホームステイし、本格的に留学がしたいと思うようになりました。日本の大学と異なり、入学時に専攻を決めなくてよいため自由に授業を選べること、そして日本を離れて精神的に自立したいと思ったのもきっかけです。

しかしながら、親が留学に大反対だったため日本の大学の中では比較的アメリカの大学に近いICUを受験しましたが不合格でした。私がひどく落ち込んでいた姿をみた両親は、留学することを許可してくれ、国内コースに2年間通っていて、実際に留学の編入合格実績が高いトフルゼミナールにサポートをお願いすることにしました。

カレッジに入学してからは、まず語学を主に勉強しました。英語を含めさまざまな言語の人と直接話す機会がたくさんあり、日常生活や進学に多く関わっていたので必然的に上達していききました。

専攻は、なるべく自分が興味の持てる内容や、専攻決定につながるクラスを選択するため音楽に決めました。専攻を決めてからは積極的に関連するクラスも履修しました。またピアノ伴奏者として、オペラ・ミュージカル・オーケストラの公演に関わったり、地元の高校や老人ホームで演奏する機会もいただきました。

アメリカでの大学生活を経験して、メディアを通じてしか知らなかったこの国に対して理解が深まりました。また同時に、家族の大切さや日本の良いところも改めて感じました。いまや留学自体は珍しいことではなくなりましたが、すべての学生が一度決めた目標に向かって諦めずに努力しているとは限りません。そういった意味で常に危機感を持って学生生活を送っていたことはとても意味があると思いました。でも逆に、日本にいる同級生と比べてホームシックになったり、焦ってしまうことがよくありました。英語が上達するまで、なかなか現地の人達に馴染めず悔しんでいたこともありましたが、いまは留学生という個性を生かし、話の合う友達にたくさん巡りあうことができました。

これから先不安なこともたくさんありますが、将来は自分の学んだことや能力を生かして、社会の役に立てるような仕事がしたいと思います。具体的にバークレーでは、心理学や認知学に重点を置いた音楽を学んでいく予定です。誰かを助けたり、世界を変える前には、まず自分が良い影響を与えられるくらいの余裕が無くてはいけません。そのためにまず、自分が社会的に自立することが私の第一の目標です。



R.Tさん
カリフォルニア大学
サンディエゴ校

自分を信じてTSTに参加、カウンセラー
と二人三脚で掴んだ更なる飛躍！

私は、中学生のときに中国から日本に来て、文化の違いや言葉の違いのたいへんさを実感しており高校に入学してからはアメリカ留学を意識した進路選択を考え、早稲田大学の国際教養学部の入学のため高校2年の夏にトフルゼミナールで学習を開始しました。

英語力はかなり実力をつけることができ、AOの1次試験は合格でしたが2次試験で不合格となり、それが本格的な留学をするきっかけとなりました。その後、トフルゼミナールのカウンセラーと相談した結果、直接トップの米国大学に入学するには、英語力や成績などが入学基準に届いていなかったことや、アメリカでの文化の違いとか生活面に不安もあり、自分の実力を信じて2年制大学でしっかり学習をして、UCへの編入進学することを決意しました。

プログラム最初に参加するUCSDでの英語研修では、生活面に慣れたり、いろいろな国から参加している学生との交流ができ、また具体的にUCのイメージが湧いたため進学する意欲を強めることができました。

カレッジ編入後の英語のPlacement Testでは、ESLからのスタートで不本意だったので、再度チャレンジしてEnglish 100からのスタート、数学は上のクラスからスタートすることができました。

初学期は、授業とともにアメリカ文化を学ぶことができ、また成績も維持することができました。2学期目からは要領もわかってきたため、21単位の授業登録とボランティア活動も精力的に行い時間の管理がとてみたいへんでしたが、いい結果を残すことができました。また、2週間に1度のカウンセリングによって、自分の方向性を常に再確認することができ、士気を維持するとともに目標がぶれることはありませんでした。さらに、サマーやウィンターでも可能な限り授業を受け、できる限り早い段階で必要な科目を取得するようにしました。

現在はコミュニケーション専攻で、UC DavisとUC Santa Barbaraの編入学内定をもらっていますが、今学期さらにGPAを上げてUCLAかUCSDにも積極的に出願をする予定です。アメリカに来て世界のことを知ることができた部分もあり、これからさらにグローバルな世界で活躍できるように、UCに進学後も頑張りたいと思います。

留学で成功するには、目標を明確にしそれに向かって取り組むことと、新しいことを恐れずにチャレンジすることだと思います。それによって自己成長ができ、将来の可能性が広まると思います。日本の大学ではできないことがアメリカではできるので、自分にとっては留学したことがとてもいい経験になっているのを実感します。

